

1 取組名称

イングリッシュディスカッションサロンの継続 ―英語での議論に慣れる場を学生に提供―

2 取組組織等

システムデザイン学部（インダストリアルアートコース）

3 取組実施代表者名

システムデザイン学部 教授 笠原 信一

4 取組年度期間

平成27年度

5 取組の概要

学生が国際学会発表や留学など国際的な場に進出するためには、日頃から英語で考え英語で意見を述べることに慣れておくことが不可欠である。そこで、英語による発表・議論を通して、国際感覚に慣れ親しむ場として、イングリッシュディスカッションサロン（以下、EDS）を開設し学生に提供することにより、英語を使うことの精神的負荷を取り除き、学生の国際的な場への進出の促進を図る。

EDSでは、単に日常会話を英語で話すだけでなく、テーマを設定してそのテーマに対して英語で意見を主張し議論を戦わせる経験を積むことを目的とする。本学の留学生（ネイティブスピーカー）が講師として参加し議論の進行役を務める他、教員も参加し議論の活性化を誘導する。また、サロンに参加する学生に対して、英語論文の英語添削指導の仕組みも設ける。

この取組を通じて、学生の留学前の語学力準備、及び留学後の語学力維持のための学生サポートの仕組みとして確立させること、本学学生からの留学者や留学希望者を増加させること、英語による論文の質を向上させることを目指す。

6 事後評価の総合評定

3. 6 ※審査会（教育担当副学長及び部局長構成）の審査員が行った5段階評価（5～1）の平均点

7 事後評価に関する審査会での主な意見

- 外国人講師として留学生を採用することにより、高い費用対効果を実現しているとともに、留学生と日本人学生との国際交流の機会にもなっている点は評価できる。
- 毎回、テーマを設定し、さらに事前準備を行って参加するようにしていることは、学習効果を高めるために有効である。
- 英語で語る場の提供は、本学の現状からして必要な取組である。他のキャンパスにこうした試みが波及することを期待したい。
- 部局独自の取組としてサロンを設置するのであれば、議論のテーマはもう少し専門分野に近いところに設定し、留学とつなげる工夫があってもよかった。